


(シラバス No.17) (専門科目 特別講究Ⅱ)

科目名	特別講究Ⅱ (教育・医療・福祉の連携論) 英語名 : Special Seminar on Coordination of Education, Medicine and Social Welfare	必修/選択	選択必修	
		単位数	2単位	
		担当教員	細田 満和子	
【授業概要】				
<p>ミクロ視点で教育現場は、複雑化、多様化した課題を抱え教員の専門性だけでは対応が困難とされる事象が生じており、マクロ視点から社会的構造や制度の見直しを図ることが喫緊の課題となっている。本授業では現場の具体的問題—特に教育・医療・福祉の境界上で発生する問題が中心となる—を発見するための問題解決志向について確認し、具体的問題をいかに社会的課題として捉え研究テーマとして設定し直すかという問いの立て方を学修してもらう。そして設定した課題を解決するためのいくつかの論理的枠組み（フレームワーク。専門職論や役割理論など基本的なものや院生の課題に応じた理論的枠組みまで、適宜紹介する）を示し、現場への応用可能性を吟味し、実践につなげてゆく学びを共に行う。境界性での諸問題では、チーム概念や職種横断的協働が解決の際のキーワードになるが、その他の概念についても柔軟に取り入れることができるように示唆していく。</p>				
【キーワード】				
専門職論、境界性、職種横断的協働、課題提起型教育、実践研究				
【授業の到達目標】				
<ul style="list-style-type: none"> ・「チーム学校」について批判的に検討し、学校という場における教育・医療・福祉の協働の理論的意味、そして実践する際に生じてくる不都合や困難さを社会的課題として設定し、論点整理することができること。 ・学習の成果として、自分の専門分野の具体的問題を、理論的枠組みを援用しながら研究課題として設定し、自律的に課題を探究するという実践研究ができること。 ・課題解決のための具体的方法を同定し、それを実践し、問題改善が達成できたかどうか、適宜教員との指導的対話を経て自分で評価できること。 ・こうした理論と実践を論文の形式で書き記したり、プレゼンテーションできるようにしたりし、今後類似の課題が生じた際に、応用できる能力を身につけること。 				
【教育の方法】				
スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】				
【授業計画】				
回	内 容			
1	オリエンテーション 本授業の狙いと概要			
2	社会の問題の社会学概論—個人のトラブルから社会的イシューへ—			
3	教育・医療・福祉の境界上で生じる諸問題に関する概論			
4	多職種協働に関する理論的視座（専門職論や役割理論を中心に）			
5	障がいのある子どもや医療的ケア児への多職種の関わり（医師・看護師）			
6	障がいのある子どもや医療的ケア児への多職種の関わり（学校教諭・特別支援教諭）			
7	障がいのある子どもや医療的ケア児への多職種の関わり（福祉職）			
8	海外における障がいのある子どもや医療的ケア児への対応（アメリカ）			
9	海外における障がいのある子どもや医療的ケア児への対応（フィンランド）			
10	海外における障がいのある子どもや医療的ケア児への対応（ブータン）			
11	学校現場における障がいのある子どもや医療的ケア児の直面する課題			
12	学校現場における障がいのある子どもや医療的ケア児の直面する課題解決の方法			
13	学校現場における障がいのある子どもや医療的ケア児を排除しない場づくり			
14	学校における教育・医療・福祉の協働の制度的仕組み			
15	学校における教育・医療・福祉の協働に向けて			
試験				

<p>【履修にあたっての準備・履修上の注意点】 指定したテキストを事前に読み、理解を深めておく。</p>
<p>【スクーリングでの学修内容】 スクーリングは、学修の初期に、授業の目的や学修の概要を知り、この科目を通じて何をを目指すかを学生と教員が相互に確認するために行う。さらに、学修の終期に、学修のまとめとしてスクーリングを行う。 初期のスクーリングでは、事前学習として専門職論の協働に関する基本的文献を読み込み、課題の整理を行う準備をする。事後学修としては、スクーリングでの学修成果を踏まえて、現場の課題をマクロ・ミクロの視点から整理するレポート作成の準備を進め、終期のスクーリングまでにレポートを提出する。 終期のスクーリングでは、事前に各自の書いたレポートを交換して読んでおいてもらった上で、スクーリング当日はこれをもとに発表、相互討論を行い、実践に関わる学術論文についての理解を深める。スクーリング後には、学修全体の成果を踏まえて、課題探求の視点や連携に関する科目習得試験を行う。 スクーリングはこの2つの時期を含み、合計4コマ6時間以上をめぐりに行う。</p>
<p>【評価方法】 合否については、研究計画の発表（25%）、レポート1本（25%）、科目修得試験（50%）で評価する。</p>
<p>【テキスト】 細田満和子『「チーム医療」とは何か』日本看護協会出版会、2012年 細田満和子『グローバル共生社会へのヒントーいのちと健康を守る世界の現場から』星槎大学出版会、2015年 P. フレイレ（三砂 ちづる 訳）『被抑圧者の教育学』亜希書房、2011年 Hosoda, M. (2019). Chapter 11 Qualitative Data Analysis, <i>Researching Health: Qualitative, Quantitative and Mixed Methods</i>, edited by Saks and Allsop, pp.203-224, SAGE.</p>
<p>【参考図書】 タクル・S・ポーデル（細田満和子 訳）『マイ・グリーンスクール』星槎大学出版会、2018年 細田満和子『パブリックヘルス 市民が変える医療社会』明石書店、2012年</p>
<p>【教員メッセージ】 ・現場から立ち上がってくる教育、医療、福祉の境界上にある課題を共に考えていきます。 ・スクーリングでは、課題を持ち寄り、解決の為の建設的ディスカッションをしていきたいと思えます。</p>
<p>【備考】 特記事項なし</p>